

2010年度・平成22年度 事業報告書

2010年・平成22年4月1日～2011年・平成23年3月31日

2011年4月1日

学校法人山口学園
くずは青葉幼稚園

目次		2010年度・平成22年度 くずは育英幼稚園 事業報告	
第1節	法人・幼稚園概要	3	page
第2節	2010年度・平成22年度 幼稚園運営指針	4	page
	経営理念	4	page
	本学園の使命	4	page
	教育理念	4	page
	2010年度 教育指針・保育指針	4	page
	2010年度 異年齢児による教育活動の報告	5	page
第3節	自己評価の取り組み	6	page
第4節	子育て支援事業	6	page
	預かり保育	6	page
	園庭開放（未就園児子育て支援）	7	page
	課外教室	7	page
第5節	教育環境設備の充実	7	page
第6節	納付金の改訂	8	page
第7節	経営改善計画の策定	8	page
	平成20年度策定の「経営改善計画」の取り組み実績と今後の課題のまとめ	8	page
第8節	大阪府私立幼稚園経常費補助金	9	page
第9節	平成22年度安心子ども基金特別対策事業	9	page
第10節	枚方市 / 平成22年度幼稚園幼児教育助成モデル事業	10	page
第11節	保護者交付各補助金	10	Page
第12節	組織運営体制	10	page
	理事長・理事会の役割と責任	10	page
	幼稚園運営体制	10	page
第13節	教員の資質向上	11	page
	園内における保育研究	11	page
	園外における研修	11	page
第14節	園児健康管理	11	page
第15節	職員健康管理	12	page
第16節	幼稚園行事（事業）の大要実施報告	12	page
第17節	学事報告	12	page
	平成22年度 学籍詳細	12	page
	平成22年度 就学小学校一覧	12	page
	学籍の推移と平成21年度学籍 [資料]	13	page
第18節	財務報告	14	page
第19節	その他の報告	14	page
	未就園児教室の開講	14	page
	未就園児（在園児）園庭開放の実施	14	page
	小学校との連携・交流	14	page
	ホームページの更新（情報公開）	14	page
	高齢者との交流会	15	page
	2010年度通園バス運行	15	page
	2010年度給食実施状況・食育の取り組み状況	15	page
	銀行借入金に関して	16	page
	幼稚園窃盗事案の発生	16	page
第20節	沿革	17	page

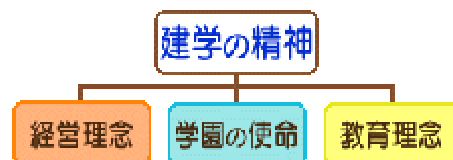
学校法人山口学園くずは青葉幼稚園
2010年度 / 平成22年度 事業報告書

第1節 . 法人・幼稚園概要

設置者	学校法人山口学園
学校名	くずは青葉幼稚園
所在地	枚方市北楠葉町38番1号
学校長氏名	園長 山口尚志
法人代表者	理事長 山口亨 副理事長 山口尚志 (法人の代表権を有する副理事長)
理事会	理事7名、評議員15名、監事2名 定例理事会 2回開催 (決算5月・予算3月、承認)
定員・実員学籍	定員400名 実員174名 (平成22年5月1日時点) [3歳児66名、4歳児57名、5歳児51名]
職員構成	平成22年度 園長1名、主任教諭1名、教諭10名、園務員1名、嘱託バス運転手2名、 体育講師1名 合計16名 (平成22年度新規教員採用2名、前年度末退職教員1名) 合計16名)
建学の精神	「たくましく人間性豊かな子どもをめざす」
その他	以下の項目は、ホームページ [http://www.k-aoba.ed.jp/] にて詳細公開 (本事業報告書にての記載を略) 建学の精神・教育方針 / 指導方針・学園環境・保育概要 沿革 (本書・第20節・P17に掲載) ・2010年度教育指針 (本書第2節 ・P4~6に掲載) 学費納付金・預かり保育・情報公開 [幼稚園概要 (事業報告・財務状況等) ・課外教室・食育取組及び給食内容・感動の声 (保護者意見集) ・推薦の言葉・保護者交付各補助金 (2010年度交付実績は、本書・第11節・P10に掲載)]
その他	法人及び幼稚園連絡先 電話 072-857-8221 FAX 072-856-5944 メールアドレス info@k-aoba.ed.jp 園章 

第2節．2010年度・平成22年度 幼稚園運営指針

開園33年の実績を基盤に本園幼児教育の推進と充実を図るため、併せて「建学の精神」をより太くするため、2009年度に引続き、年度初め（2010年度）に「経営理念」「学園の使命」「教育理念」の三つの柱を再認識の上、運営指針を定めた。この指針に基づき幼稚園運営を行なった。また、本園全体で実践している「異年齢児による教育活動」の充実を図るため、年度指針を設定した。更に学年ごとに詳細の教育目標を設定、これを全教員共通理解を図り、幼稚園全体の教育内容の充実のため意志統一を行った。〔2010年度・本園の教育指針並びに学年の教育目標、異年齢児による教育活動の指針については「学校評価」（2011年4月公開）の前段に掲載〕



経営理念

多様化、複雑化する社会構造と教育構造の真意を捉え、次代を担う子どもの生育を真摯に考え変化を先取りする。また保護者ニーズの真意を捉え保護者との連携を構築し幼稚園教育の満足度を高めることをねらいとした。教職員は、業務並びに事業全てに対して「一生懸命な姿勢」を貫き、結果のみを重視することなく過程をも重視した教育を実践することを理念とし設定した。

教育水準の向上を図り、園の目的を実現するため教育活動及び学校運営の状況について自ら点検及び評価（学期毎）を行い、その結果を年度末（または年度初）に公表した。（2009年、2010年、2011年それぞれ4月公開）

また、園の教育活動その他の学校運営の状況について保護者等に対して積極的に情報を提供。さらに危機管理体制を構築し、安全な幼児教育環境を設定した。

公開する内容 = くずは青葉幼稚園・学校評価

財務状況（消費収支計算書・資金収支計算書・貸借対照表・財産目録）

本園の教育活動について出来るだけ公開し、幼児教育機関としての役割を果たす。

（HP等の活用）

本学園の使命

保護者に文書並びにホームページを活用し、子育て情報、教育情報等を積極的に発信し、家庭・保護者教育力を高めることが成されるよう努力した。（上記、 - 重複項目）

また、年間を通じて「園庭開放」を実施し、未就園児保護者も含め家庭との連携を深め、子育て支援を充実させた。

教育理念

2010年度教育指針・保育指針を全教員で年度初めに確認し共通理解のもと実践に取りくんだ。その概要は下記の通り。

従来の「幼児体育・健康領域」の重点指導はもとより、領域「人間関係」の重点的指導並びに環境構成に留意し「異年齢児」による教育活動を2009年度以上に推進した。その活動日・教育日数を年間において増加しこれに充てた。〔2010年度・本園の教育指針並びに学年の教育目標、異年齢児による教育活動の指針については「学校評価」（2011年4月公開）の前段に掲載〕

2010年度・平成22年度 教育指針・保育指針

本園は、幼児の「心身の成長」を促し、子ども達相互の「ふれあい」を大切にされた教育環境を整えることが何よりも大切と考えている。そして、幼児がいろいろな生活体験を積み重ねることができるよう指導と援助を行い、「明るく伸び伸びした幼児の育成」を目指すことが教育目標である。幼稚園集団生活の中で、幼児期の「躰」を充分に行い、情緒の安定を図り、そして将来の社会の担い手となるよう、自主性と

協調性をもった豊かな「個性の創造」を育むことに努力研鑽に努めている。「幼児の心身の成長発達を助長し明るく伸び伸びとした集団生活を行う」「幼児期の幅広い諸経験を通して自主性を培い、そして体得して表現し、さらに集中してやり遂げる」という幼児教育を目指している。2010年度は、それぞれの学年において詳細の「教育目標」を設定し、保育に努めた。〔2010年度・本園の教育指針並びに学年の教育目標、異年齢児による教育活動の指針については「学校評価」(2011年4月公開)の前段に掲載〕

年長学年は、思いやりの気持ちをもって友だちと関わり、思いを伝えあう大切さを感じるとともに色々な活動に意欲をもち、目標に向かって精一杯取りくむ。

年中学年は、集団であそぶ楽しさを味わい、自分の力を発揮しながら何事にも最後までやり遂げる気持ちを持つ。

年少学年は、基本的な生活習慣を身につけ色々な活動に意欲的に取り組み、友だちとあそぶ楽しさを味わう。

全学年・幼稚園全体として異年齢による教育活動を通して以下の教育目標を設定した。異年齢の友達に親しみを持ち関わりを深め、友だちとの生活の中で自分らしさを発揮する。いろいろなクラス、学年の友達や保育者との関わりを楽しむ。すすんで関わりをもち、思いやりの気持ちを育む。

2010年度・平成22年度 異年齢児による教育活動の報告

入園・進級当初 [4月・5月]

教育保育目標	異年齢の存在を知らせ知り親しむ。 まわりの人へ親しみをもつ 自分の知っていること、できることを喜んで知らせようとする 自分たちができることを考え行おうとする
教育活動	園内めぐり 全学年 給食準備手伝い 全学年 食育指導 全学年・市民の森散策 年中・年長

異年齢の友達に親しむ [6月・7月・8月]

教育保育目標	異年齢の友達に興味をもち一緒に遊ぼうとする 異年齢の友達に手伝ってもらいながら自分のことをしようとする 異年齢の友達にどのように伝えるか考え、接する 異年齢の友達と一緒に遊ぶことを楽しむ
教育活動	歯磨き指導 ダンスを踊る 笹飾り 全学年 異年齢チームでの活動 年中・年長 市民の森散策 年中・年長 ディサービスセンター訪問 年長 夏期保育 ・夏期預かり保育

異年齢の友達との関わりが深まる [9月・10月・11月・12月]

教育保育目標	異年齢の友達との関わり方を知る 自分の思いを友達に伝え友達の思いにも気づき受け入れたり応えたりする 異年齢の関わりの中でリーダー的存在となり遊びをすすめる
教育活動	運動会(異年齢ゲーム・異年齢リズム) 全学年 10月異年齢活動(運動会ごっこ、市民の森散策、指人形づくり) 全学年 いもほり(年中・年長) 交通安全指導 全学年 七五三参拜(雨天中止) ディサービスセンター訪問 年長 11月異年齢活動 市民の森散策 全学年 紙芝居読み聞かせ 全学年

異年齢の友達との活動に安心感をもつ [1月・2月・3月]

教育保育目標	異年齢の友達に積極的に関わり、友達の思いに気づき行動する		
	今までの経験や関わりに自信をもち、色々な人と関わる力へとつなげる		
教育活動	朝の集いゲーム	お正月遊び	一日入園 昼食会
	誕生会司会進行・誕生会音楽隊の伝授	お別れの集い	全学年
	異年齢保育(誕生会をみんなでつくって祝う) 年長		
	年長児へのプレゼントづくり	年少・年中	卒園製作 年長

異年齢保育は、人と関わる力を育み、経験の中で人への優しさやいたわる心を育てるということを確信した。園児は、子ども同士の関わりとたくさんの経験の中で「やってあげたいと思う心」「やさしくされて嬉しいと思う心」は「人と関わる力」となった。そして新しい人間関係を築く第一歩となった。

年間を通し、「教育目標・ねらい」を設定し取り組んだ。これらの幼稚園における「異年齢活動」がきっかけとなり、日常のあそびや登・降園での子ども達同士の関わり、預かり保育の活動時における子ども達同士の関わり方が、さりげなく自然になった。異年齢児の交流は、決して一方通行ではなく「やってあげるだけ」「やってもらうだけ」では成り立たず、「やってもらったことへの感謝の気持ち」「やってあげたことが、伝わった喜び」等、お互いが感じあうことが重要であると教員一同再認識した。友だちの思いに気づく、友だちのことを思いやる、それが「かかわる力」であり、友だちやまわりの人に助けられながら、特に年少児達は、少しずつ身につけはじめた。この取り組み、教育活動により本園の「建学の精神」がより太いものとなり、在園児に意義ある教育活動並びに幼児の発達の援助が成されたものと認識している。

第3節．自己評価の取り組み (2 - 関連)

継続して評価項目に沿って「自己点検・自己評価」を学期毎に行い、教員自らが主観的に指導や子どもとの関わりを省みた。そして、総合評価として園長・主任による第三者評価を加え、それを客観的な評価と位置付けた。また、学校関係者評価として本園父母会役員の方にその内容を説明し、意見を求めた。その結果、「特に指摘すべき事項・内容は無い」旨の評価が成された。

これを2008年度～2010年度同様に新年度・2011年4月に「学校評価・自己評価」として、ホームページにて公開を行った。[HP参照]

第4節．子育て支援事業

預かり保育

17時30分まで園児を預かり、「預かり保育」を実施した。また、7月及び8月夏期休業中(夏休み)に16日間、さらに12月冬期休業中(冬休み)に2日間、9時より17時まで預かり保育を実施し、子育て支援事業として位置づけた。

尚、子育て支援事業の趣旨のみに非ず、従来の教育活動同様に「異年齢児による教育活動」と位置付け、子ども同士の関わりを深めるための指導や援助を実践し、子ども自らが育つ「子育て」の環境を調えた。

預かり保育 / 日数 / 利用人数等実績

通常預かり保育 4月～3月	2009年度	2010年度
預かり保育日数	年間168日	年間171日
預かり保育延べ利用園児数	3019名	2535名
一日平均園児数	17.9名	14.8名

預かり保育 / 日数 / 利用人数等実績

夏期預かり保育 7～8月	2009年度	2010年度	冬期預かり保育 12月	2009年度	2010年度
預かり保育日数	14日	16日	預かり保育日数	2日	2日
預かり保育延べ利用園児数	650名	746名	預かり保育延べ利用園児数	83名	98名
一日平均園児数	46.4名	46.6名	一日平均園児数	41.5名	49名

園庭開放（未就園児子育て支援）

園庭開放を年間を通じて実施した。（月1回～2回）このことにより、未就園児並びに在園児も含め、保護者（家庭）との連携を深めた。

尚、参加者は一回のみの参加者、全回参加者も含め138名、園庭開放日（11日間/2009年度は12日間実施）に来園者総数は延べ419名となり、各園庭開放日に36名平均の未就園児が来園となった。継続して毎月の参加者は、約80名となり、本園入園を希望される方が65%の割合を占めた。

また、昨年度は、過去3年間で園庭開放参加者、説明会参加者の対比では来園者数が増加したが、2010年度は、若干数の来園者が現象となった。

今後も継続して、園庭開放において未就園児と保育者の関わりをより広く実践し、幼稚園に対する保護者意識を高めるよう環境を構成し、未就園児保護者の子育て支援事業としていきたい。併せて、就園前の保護者の幼稚園選択の一助となるよう努めたいものである。

	2006・H18 (07・H19入園)	2007・H19 (08・H20入園)	2008・H20 (09・H21入園)	2009・H21 (10・H22入園)	2010・H22 (11・H23入園)
園庭開放参加者	121名	97名	約80名	144名	138名
9月入園説明会 園庭開放参加者	70名	62名	56名	86名	96名

課外教室

継続して、課外教室を展開し「子育て支援事業」として位置づけた。その教室内容は、以下の通り。

- ・アートクラブ [絵画造形活動・教室名 = アートクラブ / 月曜日開講]
- ・スポーツクラブ [体育活動クラブ・教室名 = スポーツクラブ / 火曜日開講]
- ・英語教室 [英語指導教室・教室名 = ECC / 水曜日開講]
- ・幼児知育教室 [知育・教室名 = プレイルーム / 木曜日開講]
- ・幼児知育教室 [文字、数の指導・教室名 = エンピツらんど / 金曜日開講]

多くの在園児が課外教室を受講し、広く教育機関としての位置づけが成された。尚、スポーツクラブ及びプレイルームにおいては、卒園後（小学生）も課外教室を受講し、地域の教育センター的な要件を備えるに至った。

第5節．教育環境設備の充実

2010年度・平成22年度、春期休業中（春休み / 2010年3月20日～3月末）に年中園舎保育室出入口口ドアの安全改修、並びに1階保育室6室の手洗い場（水道カラン）の全面改修工事、併せて保育室6室の室内塗装改修を行った。また、花壇6基の安全改修を実施した。

続いて、6月完了の予定で南園舎の屋上防水を実施した。また、2010年度末（2011年3月21日～3月末日）に南園舎2階保育室出入り口ドアの安全改修、並びに当該保育室2室の手洗い場（水道カラン）の全面改修工事、当該保育室の室内塗装改修を行った。北園舎2階各保育室4室同様の改修工事。階段室の床改装、天井の塗装改修を実施した。これらの改修は園児の安全衛生環境を整え、今後の幼稚園教育の有効を目指すものである。（園庭西の駐車場についても拡張工事を行ない、来園者駐車場の増設を行った）

[当該改修工事は、一部の工事を2011年4月以降に執り行うことより、一括して2011年度・平成23年度の財務支出となることにより、当該経費は2011年度決算に反映することとなる]

第6節．納付金の減免（入園一時金施設協力金の兄弟姉妹関係児減免措置）

保護者の経済的負担を最小限に抑え、兄弟姉妹関係児の保育料減免措置、併せて空調費の減免措置も実施している。この趣旨に則り、さらに平成21年度入園者より入園一時金の内、施設協力費2万円を在園並びに卒園の兄弟姉妹関係の入園者[納付義務者＝保護者]に対して減免措置を執った。継続して平成22年度入園者について同様の減免措置、更に平成23年度入園者についても適用した。[園則変更済]

第7節．経営改善計画の策定

標題の「経営改善計画」を平成20年度において向こう5年間の計画を策定した。

従前より経費節減に努め、平成19年度と平成18年度の対比では、管理経費全体で約2800万円の節減を行った。その主な要件は、経費節減並びに減価償却額の減少となり、管理経費支出を抑制、さらに修繕費支出を抑えたが、平成20年度には、保育室改修工事を実施し平成20年度決算では、大幅に支出が決算上表示されることとなった。経営改善計画の根幹は上記の経費節減と学籍園児数の増大であり、今後の園児募集活動内容の充実を図る旨の計画を立案した。

また大阪府私学助成カットが、平成20年度に打ち出され、経常費補助金の削減となったが、配分基準により精査すると、園児減少による園要素の単価減少（140名以下の配分単価/平成20年度本園実員は139名の構成要件）が大きく影響したものと判断できる。尚、経常費補助金の配分要素として「経営改善計画」の策定により、40万円の配分要件を満たし本園においてもこれを策定し、経常費補助金の増額が得られた。経営改善計画は、平成20年度から平成24年度の五年間についての計画を策定した。

上記、を受け、2010年度・平成22年度において継続して「経営改善計画」の修正を行いこれを継続し、幼稚園運営・経営の安定化を目指した。但し、経常費補助金内の「経営改善計画策定による補助金」については、その配分要件である[平成21年度決算による「(帰属収入-消費支出)÷帰属収入」が0%以下であること]が満たされない決算結果となり、40万円の補助金交付は執行されない状況となった。これは、年度末改修工事の経費を4月支出(改修工事完了後の費用請求のため)により、平成21年度決算に修繕費等に反映されなかったための事象であり、平成23年度においての当該補助金については、交付が見込める状況である。尚、当初経営改善計画の顛末・経過を踏まえて修正を行ない継続して「経過報告書」を作成し、大阪府・私学大学課提出に2010年10月21日付を以て提出した。

平成20年度策定の「経営改善計画」の取組み実績と今後の課題のまとめ

経営改善計画書は、園児数拡大が重要な課題であることとして設定した。結果として、年間を通じた園庭開放や情報公開により、本園の内容をご理解いただいた上で「開かれた幼稚園」を目指すことが本来であるが、本園地域では少子化若しくは保育園入園志望が多くを占める。この現況において今後も計画書にある子育て支援の対応はもちろんであるが、加えて「預かり保育の時間延長」等の整備が急務とされること予測される。

然るに教職員の労働環境等の問題も存在する故、その対応には時間を要すると考えられる。園児数拡大により、教員の増員や施設整備等の支出が拡大することとなるが、本園の適正規模園児数を維持することにより、安定した経営・運営状況が構築されるものとする。

今後も「経営改善計画」に則り、当該年度の修正を加えながら計画を推進するものである。平成20年度より、大阪府私学助成削減の方針が大阪府により行政改革として実践され平成22年度においても2.5%カットが表明されたが、本園の場合は「借入金返済」が大きな要件を占め経常費補助金削減は大きな衝撃である。経常費補助金交付を本来とせず、本園としての教育運営を实践すべきが責務と認識するが、ここ数年の園児減少を捉えたと経常費補助金の交付趣旨並びに増額が有効となるよう経営努力すべきと感じる。

尚、平成21年度より、大阪府私立幼稚園経常費補助金の新配分基準にみられる情報公開要素並びに子育て支援推進要素等により、平成22年度においても補助が成されることを十分に認識し、幼稚園教育運営に取り組むべきが、必然である。併せて、私立幼稚園本来の教育内容、本園「建学の精神のより充実」に向けての努力研鑽に励むべきと痛感するものである。

第8節．大阪府私立幼稚園経常費補助金

平成21年度より、大阪府私立幼稚園経常費補助金の新配分基準が改訂され、前述の「情報公開要素（財務状況・学校評価）」また、「子育て支援要素」が新設されその要件を満たした。

平成22年度経常費補助金配分基準においても同様に要件を満たし、合計40,391千円の経常費補助金交付と決定された。これは、平成21年度より3,399千円の増額となり、本園財務状況の厳しさに対して幾らかの好転となり、前述の保育室他改修工事の大きな糧となった。

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
38,426	38,830	35,223	33,627	34,150	31,193	36,992	40,391
213名	210名	191名	160名	154名	139名	151名	174名

経常費補助金 年度別交付実績 (単位千円/下段は学籍数(当該年度5月1日時点))

第9節．平成22年度・安心子ども基金特別対策事業

【幼児教育の質の向上のための緊急環境整備事業補助金】(安心子ども基金)

幼児教育の質の向上のため標題の補助金が平成21年度に創設され、本園においても申請を行った。当初(昨年)、インフルエンザ流行の兆しがあり、その対策として「空気清浄機」等の設備購入を検討したが、その効果等に不確実性があるため、遊具等の修理修繕と保健衛生関係の備品購入(視力検査器・身長計・体重計等)をその申請内容とした。その結果、平成21年12月16日付を以て、326千円の補助金交付を受けた。尚、交付は平成22年5月となり、計算書類においては平成22年度決算での計上となる。平成22年度は、「デジタルテレビ整備・アンテナ工事」について491,500円の事業支出を実施し、事業計画を平成22年5月21日に提出した。これにより、212,000円の当該補助金が交付される見込となった。尚、同様に交付については平成23年度中となる予測である。

第10節．枚方市 / 平成22年度幼稚園幼児教育助成モデル事業

枚方市より、幼児教育助成モデル事業として補助金整備された。その趣旨は、「平成21年度に改定された幼稚園教育要領において、幼児期における教育の重要性が位置づけられ、教育要領改定の趣旨を踏まえた小学校への円滑な接続、地域や家庭との連携等、幼稚園が行う特色ある幼児教育の取り組みに対して、平成21年度から平成23年度までの三年間助成を行うことで幼稚園教育の充実を図る」とされている。

標題の事業について昨年（平成21年度）に引続き、本園もこれを申請し、補助が成される見込みとなった。（上限30万円）

その事業申請の内容は、地域の自然、人材、行事、公共施設を活用し、幼児に多様な体験をする機会を提供する事業。幼児教育の充実に資する事業。（園庭開放等）以上の事業の申請により、枚方市より標題補助金30万円の交付決定となった。（2011年3月交付）

第11節．保護者交付各補助金

私立幼稚園就園奨励費補助金をはじめとする2010年度・平成22年度保護者交付金は、以下の金員が各行政機関より補助金交付となり、本園より配分した。これにより、私立幼稚園就園児 取り分け本園の保護者負担を軽減し、幼児教育の一層の充実させる趣旨の通り達成されたと信じているところである。

大阪府私立幼稚園保育料軽減補助金	3歳児交付	851,000	37名
枚方市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	8,098,800	91名
京都府私立幼稚園保育料軽減補助金	3～5歳児交付	468,000	26名
八幡市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	1424,400	15名
京都市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	130,800	3名
京都市私立幼稚園就園教材補助金	3～5歳児交付	203,000	6名
京田辺市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	108,000	1名
枚方市私立幼稚園保育助成金補助金	3～5歳児交付	4,901,900	146名

（枚方市私立幼稚園保育助成金補助金は、枚方市教育委員会より直接保護者に交付）

第12節．組織運営体制

理事長・理事会の役割と責任

従前より理事長・山口亨は、体調不調が続き、幼稚園に赴いての現認することが困難な状況となった。そのため、法人業務及び幼稚園業務運営については、代表権のある副理事長・山口尚志がこれを執行し、何ら差し障りのない処理を行い、業務を遂行している状況である。これは、副理事長（園長）が理事長に詳細にわたり報告・説明を成し、法人運営について円滑化されている点、併せて、私立学校法改正の際に、本法人の代表権のある副理事長としたことより、何ら問題が生じていない現状である。

幼稚園運営体制

従前通り、平成22年度中においても「園務分掌規程」に基づき、業務を分掌し、合理的で機能的な幼稚園運営を図った。また「行事担当分掌」についても職員の責任と自覚のもと遂行され円滑な園運営がなされた。

第13節．教員の資質向上

園内における保育研究

平成22年度、園内での「研究保育」を実施した。

2010年 5月 20日	製作活動 紙とんぼ作り	年長学年 / 大堀教諭・全教員
2010年 6月 28日	製作活動 ヨット作り	年少学年 / 重谷教諭・全教員

それぞれの保育内容について全教諭より、指導助言等を行い総合評価を行った。当該教諭は、研究保育及び評価反省会を日々の保育に活かした。

園外における研修

平成22年度、園外での「研修会」に下記の通り、参加した。

2010年 5月 9日	発達障がいかもしれないと気がかりな子どもの幼児期とは。= 就学前の言葉の発達とその援助	大阪医科大学LDセンター / 主任参加
2010年 5月 23日	発達障がいの子どもの評価でつかう検査とその見方	大阪医科大学LDセンター / 主任参加
2010年 5月 23日	幼児期にしておきたい学習の基礎づくり = 就学前の言葉の力を育てる	大阪医科大学LDセンター / 主任参加
2010年 8月 28日	発達障がいと遅れのある子どもの行事の参加を促す手だて	大阪医科大学LDセンター / 園長、主任他10名参加
2010年 11月 3日	健診・幼稚園での気付きのポイントから	大阪医科大学LDセンター / 主任参加

第14節．園児健康管理

平成22年度中に下記の園児健康管理を行った。

毎月（8月度は除く）身長、体重の測定 5月、9月、12月、3月 胸囲、座高の測定。

学校保健法により、右記の健康診断を実施。検尿検査 5月12日、寄生虫検査 5月21日、

歯科検診 6月2日、内科検診 6月3日実施、4歳児・5歳児については視力検査を実施。

園児健康管理上において特記すべき事項

インフルエンザの罹患状況

2011年1月1日以降の園児インフルエンザ罹患による欠席状況は下表の通り。

尚、学級単位の臨時休園措置（学級閉

鎖）の対処はこれを執っていない。

月	年少児	年中児	年長児	当月合計	累計
2011年 1月	4名	2名	1名	7名	7名
2011年 2月	1名	2名	0名	3名	10名
2011年 3月	5名	5名	15名	25名	35名

第15節．職員健康管理

職員健康診断、平成22年6月24日実施

第16節．幼稚園行事（事業）の概要 報告

04 / 03	第34回入園式	09 / 01	2学期始業式	01 / 07	3学期始業式
04 / 09	1学期始業式	09 / 18	運動会	02 / 03	節分
04 / 28	子どもの日の集い	09 / 30	敬老の集い	02 / 19	生活発表会
05 / 13	遠足(枚方パーク)	10 / 15	遠足(琵琶湖博物館)	03 / 03	雛祭り
06 / 02	歯科検診	10 / 29	いもほり	03 / 11	お別れ会
06 / 03	内科検診	11 / 13	作品展	03 / 16	第34回卒園式
06 / 20	日曜参観	11 / 29	移動動物園	03 / 18	平成22年度終了式
07 / 02	お泊まり保育	12 / 06	楽団公演		
07 / 20	1学期終了式	12 / 10	音楽会		
07 / 24	青葉まつり(夏祭)	12 / 20	2学期終了式		

第17節．学籍報告・学事報告

平成22年度 学籍 2010年5月1日現在 3歳児66名 4歳児57名 5歳児51名 合計174名

年少学年	学籍	男児	女児	バス	徒歩
すみれ	17	9	8	14	3
たんぼぼ	17	9	8	12	5
ばら	16	8	8	11	5
もも	16	9	7	13	3
小計	66	35	31	50	16
年中学年	学籍	男児	女児	バス	徒歩
きく	29	19	10	25	4
さくら	28	16	12	22	6
小計	57	35	22	47	10
年長学年	学籍	男児	女児	バス	徒歩
たけ	26	14	12	18	8
ゆり	25	14	11	16	9
小計	51	28	23	34	17
全学年	学籍	男児	女児	バス	徒歩
合計	174	98	76	131	43

平成22年度 卒園児就学小学校（就学は平成23年度）

就学小学校		たけ	ゆり	合計
枚方市立	樟葉北小学校	5	8	13
	樟葉	9	4	13
	樟葉西	3	7	10
	船橋		1	1
	樟葉南	3		3
	牧野	1		1
	殿山第二	1	1	2
八幡市立	橋本	1		1
	さくら		2	2
京都市立	明親		2	2
学校法人(私立)	大阪聖母	1		1
上海	日本人学校虹橋校	1		1
合計		25	25	50

就学園児数は、2011年3月16日現在

学籍の推移 [資料]

[平成23年度学籍数は見込学籍 / 平成23年3月18日現在]

年 度	3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	合 計	入園児数	年度末卒園児数	納付金年額
昭和52年	-	48 / 2組	31 / 1組	79 / 03組	79名	31名	120000
昭和53年	-	122 / 3組	62 / 2組	184 / 05組	141名	62名	120000
昭和54年	-	157 / 4組	122 / 3組	279 / 07組	167名	122名	132000
昭和55年	23 / 1組	162 / 4組	150 / 4組	335 / 09組	197名	150名	132000
昭和56年	35 / 1組	190 / 5組	151 / 4組	376 / 10組	202名	151名	132000
昭和57年	44 / 1組	231 / 6組	189 / 5組	464 / 12組	248名	189名	132000
昭和58年	40 / 1組	276 / 7組	212 / 6組	528 / 14組	277名	212名	132000
昭和59年	26 / 1組	244 / 7組	237 / 6組	507 / 14組	211名	237名	132000
昭和60年	54 / 2組	206 / 6組	216 / 6組	476 / 14組	179名	216名	144000
昭和61年	42 / 2組	211 / 6組	191 / 5組	444 / 13組	209名	191名	144000
昭和62年	42 / 1組	179 / 5組	188 / 5組	409 / 11組	186名	188名	144000
昭和63年	38 / 2組	132 / 4組	160 / 4組	330 / 10組	140名	160名	144000
平成01年	50 / 2組	165 / 5組	123 / 4組	337 / 11組	184名	123名	156000
平成02年	58 / 2組	147 / 4組	159 / 5組	364 / 11組	160名	159名	156000
平成03年	44 / 2組	215 / 4組	139 / 4組	308 / 10組	123名	139名	156000
平成04年	75 / 3組	90 / 3組	126 / 4組	291 / 10組	129名	126名	156000
平成05年	34 / 2組	112 / 4組	87 / 3組	233 / 09組	80名	87名	168000
平成06年	42 / 2組	84 / 3組	105 / 3組	231 / 08組	94名	105名	168000
平成07年	60 / 3組	60 / 3組	82 / 3組	202 / 08組	87名	82名	180000
平成08年	71 / 3組	92 / 3組	59 / 2組	222 / 08組	108名	59名	204000
平成09年	42 / 2組	93 / 3組	86 / 3組	221 / 08組	76名	86名	228000
平成10年	88 / 4組	55 / 2組	90 / 3組	233 / 09組	107名	90名	228000
平成11年	65 / 3組	99 / 3組	59 / 2組	223 / 08組	90名	59名	252000
平成12年	57 / 3組	80 / 3組	92 / 3組	229 / 09組	77名	92名	252000
平成13年	66 / 3組	72 / 3組	74 / 3組	212 / 09組	84名	74名	252000
平成14年	59 / 3組	75 / 3組	80 / 3組	214 / 09組	79名	80名	252000
平成15年	66 / 3組	74 / 3組	73 / 3組	213 / 09組	82名	73名	252000
平成16年	53 / 3組	84 / 3組	73 / 3組	210 / 09組	71名	73名	252000
平成17年	52 / 3組	57 / 2組	82 / 3組	191 / 08組	60名	82名	252000
平成18年	47 / 3組	56 / 2組	57 / 2組	160 / 07組	53名	57名	252000
平成19年	53 / 3組	47 / 2組	55 / 2組	154 / 07組	57名	55名	252000
平成20年	42 / 3組	51 / 2組	46 / 2組	139 / 07組	46名	46名	252000
平成21年	51 / 3組	47 / 2組	52 / 2組	151 / 08組	57名	51名	252000
平成22年	66 / 4組	57 / 2組	51 / 2組	174 / 08組	75名	51名	252000
平成23年	69 / 4組	67 / 3組	55 / 2組	191 / 09組	71名	55名	252000

第18節．財務報告

2010年度・平成22年度の計算書類〔消費収支計算書・資金収支計算書・貸借対照表・財産目録〕については、当法人・監事並びに監査法人・公認会計士の監査の後に本書とは別に本園オフィシャルホームページにてこれを報告・公開する。

尚、特記すべき項目は、学籍増による「学生生徒納付金」の増額。また施設設備改修にともなう支出が増額となった。この施設設備改修には、緊急防水改修工事等の緊急を要する改修が含まれる。

第19節．その他の報告

未就園児教室の開講

未就園児教室キディクラブを2010年4月より、20名の入会者を以て開講した。業務提携（委託）をニールステップスに業務委託し、本園と補完関係を執りながら未就園児子育て支援事業を行った。また10月より、未就園児親子教室としてニール学研と業務提携（委託）し本園入園児をその会員として開講し、子育て支援事業とした。

未就園児（在園児）園庭開放の実施

子育て支援事業として「園庭開放」を実施した。2010年4月より2011年3月までの期間、土曜日午前中の開催とし、年間継続して11日間実施。また、夏まつり（青葉まつり7月）、運動会（9月）、文化祭作品展（11月）に招待し、子育て支援を図った。

小学校との連携・交流

2011年3月1日、枚方市立樟葉北小学校のご理解とご協力のもと、1年生児童と交流会を実施した。本園年長児が就学への期待を高め、且つ異年齢児による交流を深め「人間関係・コミュニケーション」の育成に教育効果があった。

- 1 ホームページの更新（情報公開）

以下の通り、ホームページ更新を行ない「情報公開」を行った。

2010年04月01日	「トップページ」リニューアル「情報公開・幼稚園概要」更新
04月20日	「園歌・園章」新規追加「預かり保育」「学費・納付金」「保育概要」「教育指針」「感動の声」更新
05月01日	「幼稚園での食事」「安定の1学期」「躍動の2学期」「充実の3学期」更新
05月26日	「感動の声」更新
06月01日	「幼稚園概要・情報公開」更新
09月01日	「2011年度園児募集要項」更新
2011年01月17日	「入園説明会／園庭開放のお知らせ」更新
01月19日	「未就園児教室」更新
01月27日	「感動の声」更新
02月22日	「幼稚園での食事」更新

[2010年度「学校評価・自己評価」並びに「事業活動報告」を2011年4月に公開の予定]

- 2 ホームページアクセスの実績報告

経営理念（本報告書第2節第 項）並びに本学園の使命（第 項）に基づき「本園教育内容等の情報公開」「子育て支援情報」や「学校評価」「財務状況」等を公開してきた。P14に掲載の通り、前記の内容を更新し、さらに「園日誌」というタイトルにて日々の園児の生活の様子、教育活動等を情報公開した。（園児画像等についての掲載については、年度初に保護者より全て了承を得、公開した）

このことにより、広く幼稚園教育内容や本園の教育方針を十分に一般的に理解を得ることができたものと確信する。その根拠は、下記のアクセス数の指標が示す通り。

A 園日誌（ブログ） <http://aoba-kindergarten.cocolog-nifty.com/> アクセス数の推移

月	PCアクセス	一日平均	訪問者数	一日平均	月	携帯アクセス B	一日平均	月	合計アクセス A+B
2010年4月	6057	202	2835	95	2010年4月	11705	390	2010年4月	17762
5月	6906	223	3174	102	5月	12358	399	5月	19264
6月	6986	233	3553	118	6月	15272	509	6月	22258
7月	7378	238	3520	114	7月	15009	484	7月	22387
8月	4902	158	2559	83	8月	6755	218	8月	11657
9月	9029	308	4008	134	9月	17008	567	9月	26037
10月	9484	306	4274	135	10月	20974	677	10月	30458
11月	7349	245	3587	138	11月	15756	525	11月	23105
12月	6530	205	2922	94	12月	11404	368	12月	17934
2011年1月	6507	210	2991	96	2011年1月	9392	303	2011年1月	15899
2月	6650	238	4162	113	2月	10418	372	2月	17068
3月	8985	233	2683	110	3月	11167	432	3月	20152
年間合計	86763	2799	40268	1332	年間合計	157218	5244	年間合計	223829

特記事項 PCアクセス PCよりのアクセス数 訪問者数 PC1機種当たり 携帯アクセス 携帯電話よりのアクセス数
3月の項は3/1～3/25迄の期間集計

B オフィシャルHP「保護者情報発信ページ」 <http://www.k-aoba.ed.jp/info.html> アクセス数の推移（当該ページは、在園児のみ閲覧可能、一般閲覧不可）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
448	224	104	1124	113	89	102	66	35	183	364	302	3152

摘要 A

PCによるアクセス最多並びに訪問者数の最多は、2010年10月。同様に携帯電話によるアクセス数も同月が最多となった。いずれにしても、年間でのアクセス数は圧倒的多数となり、情報発信による意義があるものと確信した。継続性のある情報発信が、本園のことについての理解への要となっていることが位置付けられた。

摘要 B

7月のアクセス最多となったのは、「お泊まり保育」の子どもたちの現況を発信したことによる。

高齢者との交流会 年長児・枚方市立くずは北サービスセンター訪問事業

例年に引き続き、2010年度においても年間9回、下記の学級別の日程で訪問した。高齢者と手遊びやゲーム等を楽しく行ない、関わりを深めた。園児は、「高齢者を敬う心」はもちろんのこと「人との関わり」の大切さを体得した。(2月は2クラス合同で訪問)

たけ組	6月4日	6月24日	10月26日	12月16日	2月24日
ゆり組	5月27日	6月22日	10月18日	11月22日	2月24日

2010年度通園バス運行

大型幼児専用バス(ライオン仕様・いぬ仕様)2台、小型幼児専用バス(普通車ライオン仕様)1台、合計3台の通園バスにより、各バス2~3方面(コース)合計8方面(コース)の路線を編成し運行した。大阪府大学私学課の指導による「通園バス園児乗車最大時間40分」を厳守し、園児に長時間乗車に対する負担のなきよう各路線最大乗車時間を39分、最小乗車時刻を16分、平均乗車時間を30分の路線編成し運行した。(乗車時間とは、最初に乗車した園児が幼稚園に到着するまでの時間をいう。従って乗車園児の無い運行時間は乗車時間に含まず)通園バス利用児数は、129名(2011年3月1日時点)となった。

尚、上記に記述の「通園バス運行最大40分」の大阪府指針により、2009年度対比2方面(コース)の増路線としたことにより、運行距離が増加し車両燃料費支出が拡大した状況となった。

2010年度給食実施状況・食育の取り組み状況

年間、98回の給食を供給した。入園・進級当初(4月)は「集団で食する食事」としての安定に重点をおき、食べやすい環境を調えメニューは「パン給食と牛乳」を中心とし、5月より米飯給食の供給をはじめた。また、米飯給食は、アレルギー対応食を個別に供給し、「食の安全」を確保し、経常的に「無農薬米・無農薬野菜」を食材として採用した。また、特別食として「ちらし寿司」「きつねうどん」「揚げそばの中華あんかけ」「スパゲティ」等メニューの充実に努めた。園児にとって和やかでおいしい給食の位置づけが成された。また「食育」の一環として、栄養の三要素の話等、食育に関する指導を行ない、食に対する意識の向上に努めた。さらに、「餅つき(=お餅を食す)」「芋ほり(=収穫の喜びと同時に蒸かし芋を食す)」「雛祭り(=由来を知り食す)」等の行事を通して園児の食への関心を深める指導を実践した。

2009年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	5	0	5	11	4	7	11
5	4	5	9	12	2	4	6
6	5	7	12	1	3	5	8
7	2	4	6	2	4	6	10
8	0	0	0	3	4	5	9
9	4	6	10	計	41	55	96
10	4	6	10		42.7%	57.3%	100%

2010年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	5	0	5	11	5	6	11
5	4	6	10	12	3	4	7
6	4	8	12	1	3	5	8
7	2	3	5	2	4	7	11
8	0	0	0	3	2	5	7
9	5	7	12	計	40	58	98
10	3	7	10		40.8%	59.2%	100%

銀行借入金に関して（第7節に関連して）

平成19年11月に借入先、京都銀行くずは支店に借入利率の縮小を依頼、協議の結果、0.25%引下げが合意され、3.125%の借入利率となり平成20年度予算作成に至った。また、平成21年度中において借入利率について京都銀行との協議交渉の結果、2.925%となった。さらに平成22年度5月に社会情勢等諸般事情を踏まえ再度借入利率の協議交渉の結果、2.425%と条件変更の契約を実施した。その後、年度内10月、園児募集・入園願書受付を行ない、およそその次年度学籍が見込める状況となり、再度借入利率の条件変更について申し入れ、協議の結果、同年12月末日返済時より、**2.175%の借入利率**の条件変更契約を締結した。本園にとって財務運営上、好条件へとその方向性となり、京都銀行のご理解とご支援に感謝の意を顕した平成22年度となった。

幼稚園窃盗事案の発生

2010年7月24日夜半～25日早朝にかけて、職員室及び園長室に侵入者有り。室内の金品を物色し窃盗事案が発生した。当日は、夏まつりを終え22時に職員終業とし、退勤した後の犯行で翌日の出勤時に出入り口ドアのガラス破損により発覚。枚方警察署に届出た。[警察/被害受理番号404469]この事案により、小口現金約40千円と切手約10千円の被害を被った。また、その後に「個人情報等」の盗難に関して調査を行ったところ、当該情報の流出がないこと確認した。事態が事態故に在園児保護者あて「個人情報の流出・盗難無き」ことを夏休み中故、ホームページ[保護者情報発信ページ/要パスワード]にて告知した。今後の対策として、警備会社と警備業務契約を締結し機械警備を設置し万一の事案に備える幼稚園管理体制を整えた。（これにより、警備料が新たに支出されることとなった）

文責/学校法人山口学園 くずは青葉幼稚園園長 山口尚志

第20節 . 沿革

和51年 1976年	5月2日 理事長・山口亨「建学の精神」を考察
昭和52年 1977年	2月22日 学校法人山口学園 法人認可を大阪府知事より受ける 4月10日 第1回入園式挙行 園地（開園当時） 合計 4249.0m ² （1287.5坪） 園舎面積 402.9m ² 延床面積 855.7m ² 鉄筋コンクリート造り [保育室5室、遊戯室1室、職員室、園長室の構成にて開園] 学籍園児数 79名 [4歳児48名、5歳児31名] 幼稚園教育事業開業
昭和53年 1978年	開園二年を経過し、園児数増加を見込み、園舎増築を検討、計画。 学籍園児数 184名。
昭和54年 1979年	園舎増築工事完成 園舎面積 466.6m ² 延床面積 874.8m ² 鉄筋コンクリート造 保育室・新職員室増築。学籍園児数 274名。
昭和55年 1980年	園児数増加により、第二次園舎増築を検討、計画に入る。 学籍園児数 335名。
昭和56年 1981年	園舎増築工事完成 園舎面積 83.1m ² 延床面積 139.2m ² 鉄筋コンクリート造 保 育室2室を増築。学籍園児数 376名。
昭和57年 1982年	園児数増加により、遊戯室新築を検討、計画に入る。 学籍園児数 464名。
昭和58年 1983年	遊戯室増築工事完成（新遊戯室） 園舎面積 317.4m ² 延床面積 317.4m ² 鉄骨造 遊戯室増築。在籍数 528名。
昭和59年 1984年	コンピュータ導入し学籍管理他の処理を開始。 学籍園児数 507名
昭和61年 1986年	開園10周年記念事業として「幼児教育セミナー」開催 [講師：井上敏明（教育評論 家・六甲カウンセリング研究所所長）講演] 記念誌 タブロイド版20頁作成、園 児、卒園児に記念下敷配付。学籍園児数 444名。前年度対比 63名の園児数減
昭和62年 1987年	園児定員 500名を大阪府に申請（定員増申請）400名の認可を受ける。 学籍園児数 409名
昭和63年 1988年	学費口座引落処理をコンピュータ処理開始 [銀行口座振替システム運用] 学籍園児数 330名。前年度対比 79名の園児数減少。
昭和64年 平成元年 1989年	学費(保育料)年間、156000円に改定。 学籍園児数 337名
平成 2年 1990年	文部省幼稚園教育要領の改訂により園則変更する。就業規則等改定、労働環境の 整備を図る。学籍園児数 364名。(前年度対比 27名の園児数増)
平成 3年 1991年	幼稚園パンフレットタブロイド版8頁作成。開園15周年記念として父母会より「太 陽電池時計」寄贈。学籍園児数 307名。(前年度対比 57名の園児減少)
平成 4年 1992年	学校週5日制を導入 園則変更する（平成4年9月より実施）文部省幼稚園教育要領 の趣旨に則り少人数学級編制を採用、園則変更。（1組40名定員を35名定員変 更、3歳児は25名定員）学籍園児数 291名。
平成 5年 1993年	米飯給食を導入。学費(保育料)年間、168000円に改定。 学籍園児数 233名。(前年度対比 58名の園児減少)

平成 6年 1993年	米飯給食を導入し、給食の充実を図る。 学籍園児数 231名。
平成 7年 1995年	園地の拡大、合計 5386.1m ² (1632.1坪) 理事長・山口亨 大阪府知事より教育功労者表彰 受彰 青葉スポーツクラブ創設 (スポーツクラブ開設) 第2回 枚方チャイルドサッカー大会出場 優勝 幼児体育指導を教育課程に編纂。 学校週5日制を導入の拡大、園則変更する (平成7年4月実施) 学籍園児数 202名。
平成 8年 1996年	開園20周年を迎え、諸行事等の見直しを行う。学費 (保育料) 年間、204000円に改定。学籍園児数 222名 (前年度対比 20名の園児数増)
平成 9年 1997年	預かり保育の実施、子育て支援の充実を図る。学費 (保育料) 年間、228000円に改定。学籍園児数 221名。
平成10年 1998年	夏期保育の長期化並びに夏期保育中の預かり保育拡大。 学籍園児数 233名。
平成11年 1999年	少子化対策臨時交付金 (補助金) にて園舎・保育室改修工事を実施。学費管理システムPCソフト導入。学費 (保育料) 年間225000円に改定。学籍園児数 223名。
平成12年 2000年	ホームページ開設 情報公開並びに幼稚園教育内容広報発信を開始。山口亨園長退任、山口尚志園長就任。学籍園児数 229名。
平成13年 2001年	入園願書、Emailにて入園受付開始。 学籍園児数 212名。
平成14年 2002年	食育をテーマに講演会開催 講師:大和学園理事長 田中幸雄氏。 学籍園児数 214名。
平成15年 2003年	園舎改修 [体育倉庫、備品倉庫、年少保育室空調設備設置] 学籍園児数 213名。
平成16年 2004年	異年齢児複合教育活動の本格化 (縦割り保育) 父母会運営組織の変革。全保育室並びに遊戯室に空調設備を完備。学籍園児数 210名。
平成17年 2005年	課外教室として幼児英語教室 (ECC)、幼児プレイルーム (学研)、未就園児教室を開講。異年齢児複合教育活動 (縦割り保育) の継続。教育講演会開催 講師:大和学園理事長 田中幸雄氏。学籍園児 191名。
平成18年 2006年	開園30周年を迎える。園庭開放を実施し、未就園児子育て支援事業に取り組む 異年齢児複合教育活動 (縦割り保育) の継続。課外教室エンビツらんど開講。理事山口尚志、法人の代表権を有する副理事長就任。 学籍園児数 160名 (前年度対比 31名の園児数減少)
平成19年 2007年	園庭開放を継続実施し未就園児子育て支援事業を拡大。異年齢児複合教育活動 (縦割り保育) の継続。課外教室「こどもアートクラブ」開講。園内改修 [預かり保育室・年中園舎手洗い場・園庭西花壇・園地周りフェンスの改修] 学籍園児数 154名。
平成20年 2008年	園庭開放日を月2回とし未就園児子育て支援事業を拡大。未就園児教室キディクラブ開講。夏休み預かり保育開始。給食内容について改良改善、従来にましてアレルギー食への対応を実施。 学籍園児数 139名 (前年度対比 15名の園児数減少)
平成21年 2009年	学校評価・自己評価をホームページに公開、併せて財務状況について公開。異年齢児による教育活動のより充実に努め、その活動期間の長期化を図る。園庭開放を継続実施。夏休み預かり保育の拡大実施並びに冬休み預かり保育の実施。年度末 (2010年3月) に平成22年度向け、保育室6室改修工事 (室内手洗場、保育室ドア改修他) 並びに園内花壇の安全改修工事を実施。その他の改修工事 (屋上防水塗装、園庭境界部分塗装の各修繕工事) を実施完了。学籍園児数 151名

2010年度・平成22年度 学校法人山口学園くずは青葉幼稚園の

教育事業について、以上の通り報告する。

2011年・平成23年4月1日

くずは青葉幼稚園

園長 **山口尚志**

(代表権のある学校法人山口学園 副理事長)



学校法人山口学園

理事長 **山口 亨**



Yamaguchi Gakuen Educational Foundation

学校法人山口学園

くずは青葉幼稚園

<http://www.k-aoba.ed.jp/>

〒573-1102 枚方市北楠葉町38番1号

電話 072 - 857 - 8221 FAX 072 - 856 - 5944

Mail address info@k-aoba.ed.jp

2010年4月1日発行